

令和3年7月14日

教育学部3・4年生
教育実習を受講予定の皆さんへ

教育学部長
野崎武司

令和3年度の教育実習の受講について（第1報）

新型コロナウイルス感染症予防について、学生の皆さんには様々に苦勞をかけています。現在、香川大学の関係者からの感染事例は減っていますが、今後も、皆さんの協力の下、無事に今年度を乗り切ることができることを願っています。

教育学部にとって、最大の難関は、9月の教育実習です。教員養成の中核的な教育プログラムで、実に多くの関わりの中で展開する授業科目です。附属の子どもたち、附属の先生方、実習生、大学教員ばかりではありません。子どもたちの保護者も大きく関わっています。附属学校の保護者の方々の中には、大学生が附属学校にやってくることに對して心配する声が上がっています。昨今の感染者は、若い世代が多いからです。教育実習を企画する教育学部、また教育実習で学ぶ大学生は、出来る限り最大の努力をして、感染防止・感染拡大防止につとめる義務があると考えています。そこで、本年度の教育実習にあたり、以下の参加条件を昨年度に引き続き示します。厳格に履行してください。

(1) これから教育実習までの間、香川・岡山の生活圏域を超えての県外への移動はできるだけ自粛すること。実習2週間前から実習期間中は、就職活動などやむを得ない場合においても、「緊急事態宣言」及び「まん延防止等重点措置」などの感染者が増えている地域への出入りは避け、また地元においても夜間の繁華街や夜間に酒類を提供する飲食店等でのアルバイトを休む等、感染予防の最善の行動をとること。濃厚接触者となれば、PCR検査で陰性であっても2週間の自宅待機となります。

(2) 手洗いや咳エチケットなどの「新しい生活様式」に基づく生活習慣を身につけ、実習期間のみならず日常生活において、十分な睡眠、適度な運動やバランスのとれた食事を心がけるなど、抵抗力増進に努めること。

(3) 教育実習の開始日前日より遡り、過去14日間、教育学部の所定の用紙で健康チェックを行い、教育実習初日に、附属学校園に提出すること。実習開始前までに、発熱や咳などの症状がみられる場合、大学に登校せず、学務係に連絡し指示をあおぐこと。

(4) 教育実習期間中も検温等の健康観察を毎日励行し、発熱や咳などの症状がみられる場合、①学務係と②関連の附属学校園に連絡し指示をあおぐこと。

(5) 教育実習の意義と心構えを再度確認し、実習生に相応しい振る舞いを日々心がけること。

感染予防のための情報を収集しよう！

香川県の新型コロナウイルス感染症の発生状況に注意を払ってください。様々なメディアを通じて情報収集し、自らの防疫に生かしましょう。

香川県 HP の感染状況

<https://www.pref.kagawa.lg.jp/content/etc/subsite/kansenshoujouhou/kansen/se9si9200517102553.shtml>

その他、参考となるページをリンクしておきます。

香川県 新型コロナウイルス感染症に関する情報

https://www.pref.kagawa.lg.jp/content/dir1/dir1_6/dir1_6_2/wt5q49200131182439.shtml

四国新聞の新型コロナウイルス関連のニュース

<https://www.shikoku-np.co.jp/bl/covid-19/>

厚生労働省 新型コロナウイルス感染症について

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

新型コロナウイルス感染症対策専門家会議

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/newpage_00011.html

文部科学省 新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する対応について

https://www.mext.go.jp/a_menu/coronavirus/index.html

また、スマートフォンに「接触確認アプリ（COCOA）」をダウンロードするなどの対応もお願いします。

(感染者・濃厚接触者が出た場合の対応)

原則下記のとおりとする。ただし、国・香川県・教育委員会・香川大学危機対策本部等の指針等に基づき変更する場合がある。

A：教育実習に参加している学生で新型コロナウイルスの問題が生じた場合

- ① 教育実習に参加している学生が感染者となった場合
→当該学生（濃厚接触者を含む）が配属されている実習校（施設）の実習は中断。
保健所等により濃厚接触者が確定した段階で実習は再開
感染者は退院もしくは隔離施設から帰宅後の翌日から14日間は登校禁止
- ② 教育実習に参加している学生が濃厚接触者となった場合
→濃厚接触者が配属されている実習校（施設）の実習は中断。
濃厚接触者がPCR検査で陰性と認定された時点で実習は再開
濃厚接触者は2週間の自宅待機
濃厚接触者がPCR検査で陽性と認定された場合はA①の対応

B：教育実習に参加していない学生で新型コロナウイルスの問題が生じた場合

- ① 香川大学の学生に感染者が出たが、課外活動を含めた様々な関係性を考慮しても、教育実習に参加している学生に濃厚接触者が想定されない場合
→実習は継続する。
- ② 香川大学の学生に感染者が出て、課外活動を含めた様々な関係性から教育実習に参加している学生に濃厚接触者が想定される場合
→濃厚接触の疑いのある者が配属されている実習校（施設）の実習は中断。
A②の対応

C：実習先で新型コロナウイルスの問題が生じた場合

- ① 実習先の職員・在籍生が感染
→発生した実習校（施設）のみ実習は中断。
(濃厚接触者が他実習校（施設）にいた場合はその実習も中断)
- ② 実習先の職員・在籍生に濃厚接触者がいた場合
→濃厚接触者がいた実習校（施設）のみ実習は中断。
(濃厚接触者が他実習校（施設）にいた場合はその実習も中断)

以上のような対応によって、出席日数が足りなくなる学生に対しては、卒業に必要な教育実習の受講機会を保障します。

「新しい生活様式」の実践例

(1) 一人ひとりの基本的感染対策

感染防止の3つの基本：①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗い

- 人との間隔は、**できるだけ2m（最低1m）**空ける。
 - 会話をする際は、可能な限り**真正面を避ける**。
 - 外出時や屋内でも会話をするとき、**人との間隔が十分とれない場合は、症状がなくてもマスクを着用する**。ただし、**夏場は、熱中症に十分注意する**。
 - 家に帰ったらまず**手や顔を洗う**。
人混みの多い場所に行った後は、できるだけすぐに着替える、シャワーを浴びる。
 - 手洗いは30秒程度**かけて**水と石けんで丁寧に**洗う（手指消毒薬の使用も可）。
- ※ 高齢者や持病のあるような重症化リスクの高い人と会う際には、体調管理をより厳重にする。

移動に関する感染対策

- 感染が流行している地域からの移動、感染が流行している地域への移動は控える。
- 発症したときのため、誰とどこで会ったかをメモにする。接触確認アプリの活用も。
- 地域の感染状況に注意する。

(2) 日常生活を営む上での基本的生活様式

- まめに**手洗い・手指消毒** 咳エチケットの徹底
- こまめに換気（エアコン併用で室温を28℃以下に） 身体的距離の確保
- 「**3密**」の回避（**密集、密接、密閉**）
- 一人ひとりの健康状態に応じた運動や食事、禁煙等、適切な生活習慣の理解・実行
- 毎朝の体温測定、健康チェック。発熱又は風邪の症状がある場合はムリせず自宅で療養



(3) 日常生活の各場面別の生活様式

買い物

- 通販も利用
- 1人または少人数ですいた時間に
- 電子決済の利用
- 計画をたてて素早く済ます
- サンプルなど展示品への接触は控えめに
- レジに並ぶときは、前後にスペース

娯楽、スポーツ等

- 公園はすいた時間、場所を選ぶ
- 筋トレやヨガは、十分に人との間隔をもしくは自宅で動画を活用
- ジョギングは少人数で
- すれ違うときは距離をとるマナー
- 予約制を利用してゆったりと
- 狭い部屋での長居は無用
- 歌や応援は、十分な距離かオンライン

公共交通機関の利用

- 会話は控えめに
- 混んでいる時間帯は避けて
- 徒歩や自転車利用も併用する

食事

- 持ち帰りや出前、デリバリーも
- 屋外空間で気持ちよく
- 大皿は避けて、料理は個々に
- 対面ではなく横並びで座ろう
- 料理に集中、おしゃべりは控えめに
- お酌、グラスやお猪口の回し飲みは避けて

イベント等への参加

- 接触確認アプリの活用を
- 発熱や風邪の症状がある場合は参加しない

(4) 働き方の新しいスタイル

- テレワークやローテーション勤務 時差通勤でゆったりと オフィスはひろびろと
- 会議はオンライン 対面での打合せは換気とマスク

※ 業種ごとの感染拡大予防ガイドラインは、関係団体が別途作成

新型コロナウイルス感染予防のための特別措置（令和3年7月6日現在）

【学生対応】

